

## 和歌山市立西浜中学校

### 平成27年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

**調査内容**      実施日：平成27年4月21日(火)      実施対象：3年生197名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、国語・数学・理科の3教科について、「知識」と「活用」の2種類の問題が出題されます。国語A・数学A・理科では、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて、国語B・数学B・理科では、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などについて出題されます。  
※理科については、「知識」と「活用」の問題が一体的に出題されます。

### 教科調査の結果分析から

#### 《国語科》

平均正答率については、国語A、Bともに県平均や全国平均と大きな差はありませんでした。また、本校生徒の主な課題としては、次のような点が見られました。

- 漢字や語彙について、普段の生活で使い慣れていないものがある。
- 手紙の書き方について、普段の生活で使い慣れていない。
- 「書くこと」の領域の設問において、意欲的に解答しようとする態度に弱さがある。

#### 《数学科》

平均正答率については、数学A、Bともに県平均や全国平均と大きな差はありませんでした。また、本校生徒の主な課題としては、次のような点が見られました。

- 文章を文字の式にしたり、式の意味を文章で表現したりすることに弱さがある。
- 未経験の問題について、自分で考えて解くことが苦手である。
- 長い説明文や図表を読んで解答することに弱さがある。

#### 《理科》

平均正答率について、県平均と大きな差はありませんでしたが、全国平均より少し低い結果でした。また、本校生徒の主な課題としては、次のような点が見られました。

- 多くの資料や長い説明文を読んで解答することに弱さがある。
- 記述形式で答える問題が苦手である。
- 基本的な学習事項があまり定着していない生徒がある。

## 質問紙調査の結果分析から

生徒質問紙調査は、生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。本校生徒は、全国の生徒と同じような傾向にありますが、次のような特徴も見られました。

### 《生活習慣について》

長い時間テレビ・ビデオ・DVDを見たり、ゲーム・携帯電話・スマートフォンをしたりしている生徒が、全国平均より多い。

### 《学習習慣について》

長い時間勉強している生徒や、塾に通っている生徒が全国平均より多い反面、自分で計画を立てて勉強している生徒や、自分で予習や復習をしている生徒が全国平均より少ない。

### 《言語活動について》

授業中に自分の考えを発表したり生徒間で話し合ったりすることが全国平均より少ない。また、文章を書いて自分の考えを伝えることが苦手な生徒が多い。

### 《学習と生活との関連について》

勉強は大切、授業が分かりやすいと思っている生徒は全国平均と同程度であるが、学んだことが社会に出たときに役に立つとっていたり、生活の中で活用することを考えたりしている生徒が全国平均より少ない。

## 調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと

### ○言語活動の充実に努めます

「自分の考えを書く」ことに弱さが見られることから、各教科等の授業において、自分の考えを書いたり他の生徒と意見を交流したりする機会を、より多く設けるようにします。また、基礎的基本的な学習事項の定着のため、補充学習の取り組みを続けていきます。

### ○主体的に取り組み、粘り強く考える態度を育てます

自分の力を高めたり、生活を充実させたりするために主体的に学習する態度や、未知の問題に答えが出せるよう粘り強く思考する力を育てるため、学校教育全体を通して指導していきます。

また、学習内容と生活との関連を感じさせたり、実体験の少なさを補ったりする授業を工夫していきます。

### ○生活習慣・学習習慣の改善を図ります

長時間テレビ・ビデオ・DVDを見たり、ゲーム・携帯電話・スマホをしたりする生徒が多いことや、自分で計画を立てて学習している生徒が少ないことから、学級活動等において生活習慣や学習習慣の向上について指導していきます。